



この山へ登ったのは3回目である。最初が2010年3月、次が同年9月であった。2009年1月に毎日新聞旅行の催した硫黄岳へ行ったときに泊まった夏沢鉱泉小屋が結構気に入っていたところへ、この小屋主催のスノーシュートレッキングがあることを知って行ったのが2010年3月である。同年9月に行ったのは八ヶ岳の全縦走路を歩き繋げようとして、まだ歩いていなかった根石岳と天狗岳の間を繋げることが目標であった。今回は年に1回

くらいは雪山登山を切らさないようにしようというくらいのものであった。しかし過去3回のうちで今回が一番厳しかった。西高東低の天気図は九州や沖縄にまで雪を降らした。そしてこの八ヶ岳には恐ろしいまでの低温をもたらした。24日の昼の気温は -17°C であった。この日は雪上訓練ということで、ピッケルを使った停止訓練とアイゼン



歩行の基本くらいであったので、動くことが少なくてよけい寒さが応えた。夏沢鉱泉の用意してくれた雪上車などを使って30分くらいで小屋に到着したので、気分的にもたるんだものがあったのであろう。なんでこんなに寒い中で、こんなくだらないことをやるんだという気持ちがあった。

翌日は本番の根石岳への登頂の日である。小屋の前には前夜の月が輝いており、天気はまあまあ、風は微風である。森の中は雪をたっぷり抱え込んだ木が力強く立ちつくしている。箕冠山まではこのような森が続くが、ここから根石岳までのわずか30分の区間が様相を一変させる。樹林帯が切れたとたんに乗越し状の尾根は風の通り道となっていっぺんに風が吹き付ける。3重の手袋をしていても指先は冷たくなってくる。ここで二人の女性がリタイヤ



一、珍しいことだ。今回は雪山中級の登山教室と銘打ったものであるのに、参加者は女性 7 名、男性 4 名である。まあ、二人は登頂しなかったといえども、まだ 5 対 4 で女の勝ちだ。

今回のツアーコンダクターは筋金入りの女性コンダクターの上野さんと、細やか気遣いが特徴の宮崎さんであり、これに八方尾根のパトロールと山岳ガイドで生計を立てているという浦さんが主ガイドであった。

前述したように今回の登山目的は、感じがいいから好きな小屋である夏沢鉱泉に泊まることと雪山に親しむことにあった。小屋のご主人の浦野さんは往きの送迎の運転手は勤めてくれたが、小屋には来なかったので挨拶はしそびれた。ところで俺の 40 年使い込んだ木製シャフトのピッケルもアマニ油による手入れもこの 7 年くらい全くしていないのでみっともなくなった。心を入れ替えねば。雪山用の登山靴も今シーズンもう一度くらいは使わなければいけないな。